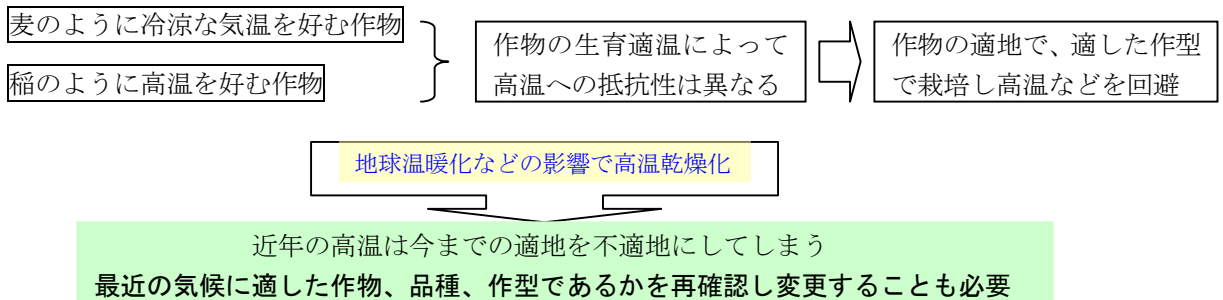


平成19年 資料

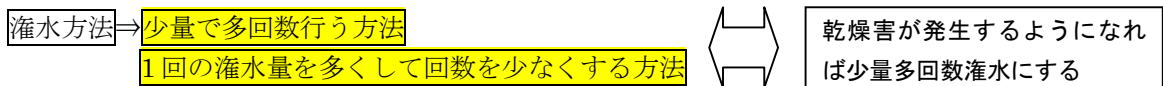
高温乾燥期の栽培管理と施肥について

昨今異常気象ということをよく言います。近年の夏は単純に高温・乾燥だけでなく、降雨・乾燥が局地的に現れるいわば劇的な気候が多くなってきました。農業技術で対応できる高温・乾燥対策を考えてみます。

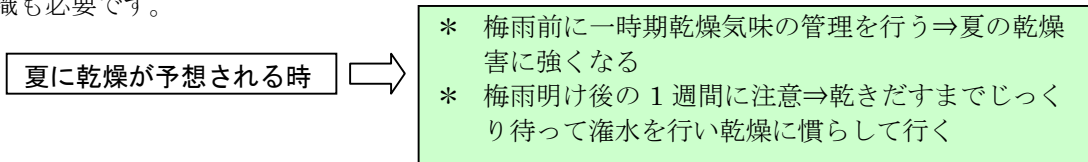
1) 適地適作



2) 灌水を考える

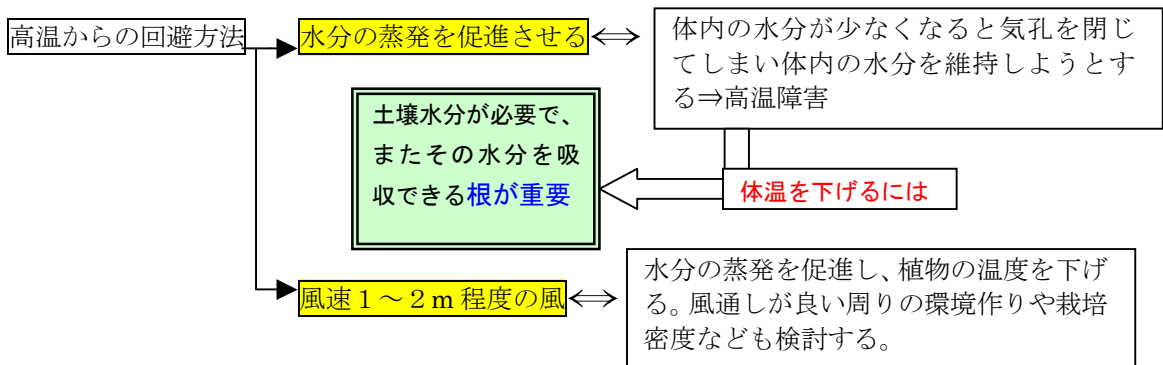


高温乾燥になると灌水設備のある圃場では逆に水分過剰になることがあります。高温期に過剰感水になり、酸素が不足すると硫化水素、炭酸ガスの発生で根ぐされになることがあります。水分が過剰ではないかとの認識も必要です。



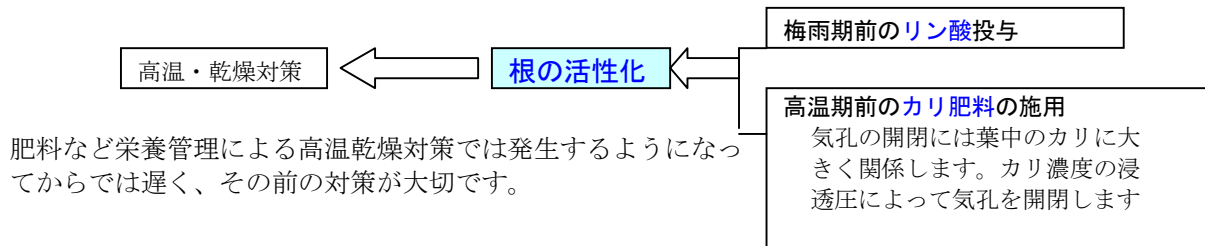
3) 作物の温度を下げる

植物は気孔から水分を蒸発させることによって体温を下げています。人間の汗と同じような働きです。



4) 施肥で対策

施肥によって直接的に高温・乾燥の対策はできませんが、生産者が比較的实现可能な方法の一つでもあります。その一つの対策として「根」が十分働いていることが重要です。梅雨期は特に排水対策を十分行い、根の活性を維持しておくことが大切です。



** 果樹の高温対策 **

1. 高温障害

1) 高温障害とは

枝幹や果実に直射光を受けることで起こる日焼けや果実障害と、高温によって樹体温が上昇し、生育不良となる場合がある。特に成熟期の高温は、着色不良や早熟となりやすい。各果樹には着色適温というものがあるが、8~9月に着色する果樹では昼夜の温度差が大きいほうが着色しやすく、秋・冬に着色する果樹では昼夜の温度差より1日の平均気温が重要となる。また、高温により枝葉や果実からの蒸散も旺盛なため、果実の肥大不良だけでなく根痛みや落葉、樹勢低下など干ばつ害も問題となっている。

2) 高温障害対策

- ① 温度低下のために葉水を行うことがある。この葉水は二通りの考え方がある。一つは水が葉に触れることによって水の温度により樹体温度を下げる方法である。この場合は夕方から数時間、葉に灌水すると有効である。もう一つは葉温度が高い時間帯に葉水する方法である。これは葉面から水が蒸発することにより葉の温度が奪われ、葉温を下げることで日中の高温障害回避に効果がある。
- ② 枝幹の日焼け防止に、新梢の誘引や捻枝を行い背面の日焼けを防止する。また徒長枝の強い間引き剪定は日焼けを助長するので控える。徒長傾向の新梢や副梢は摘心し水分競合を軽減する。
- ③ 高温対策で忘れがちなのが通気性である。防風樹の下枝の刈り込みを行うことで園内及び樹冠内の通風を改善し樹体温度を下げるができる。

2. 高温乾燥と施肥

干ばつ期になっても水分を地上部へ供給できる根作りは前述のようにリン酸肥が効果的である。また、梅雨期は日照り不足により葉の光合成が低下する。その結果、光合成産物の根への分配が減り根の機能も低下する。尚、窒素過多の樹は干ばつにも弱くなるので玉肥の窒素量には注意する。有効な肥料資材として

「マグホス」 2~4袋/10a

「グリーン・エキス」 500倍（農薬と混合可）

をおすすめします。